カルヽスバード

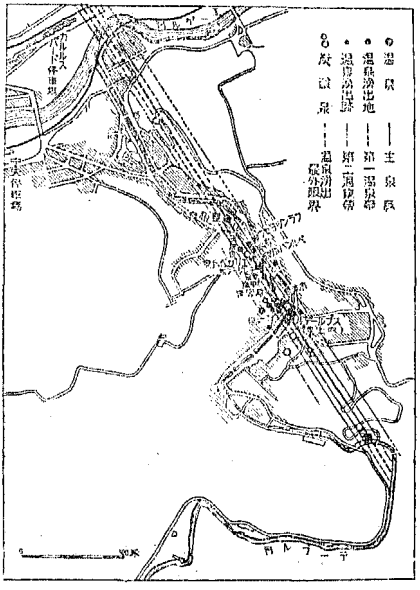
郡場寛

瑞西に行李を置いて墺利亞とチェックとを旅行したは一九一九年の暮。維也納では石炭缺亡の爲ホテルで湯に入る事が出來ず、止を得ずデアナバードと云ふ大きな町風呂へ行つたが、人が多いので二時間餘も待たされ、おまけにはいつた湯が漸く體溫を越えた位、朝湯に馴れた皮膚には迚もお話にならず、其に懲りてもう行く氣もせず、其からプラーグへ行つても矢張同じ事、もう二週間餘も湯に入らず、お湯好きの自分には頗閉口せざるを得なかつた。が幸プラーグから程遠からぬ所にあの有名なカルヽス溫泉があるので見物かた〳〵入浴を企てた次第である。

カルヽスバードはプラーグの西方鐵路百八十七キロで獨逸ザクセンの國境に近い。エルベの支流エーゲル河の再支流テープル川の注き口から一寸はいつた谷間に在り、人口一萬七千の美しい溫泉町である。テープル川は谷間の平野や絶壁の間を幾回も迂廻して居り、大小の建物が其兩岸に高く又低く立ちならび、其周圍には樅や山毛欅の森がこんもり繁つて居る。（附圖參照）

溫泉は川の兩岸に沿ひ十六ヶ所から湧き出して居る。一番有名なのはスプルーデルと云ひ、溫度

七十二度、一分間の湧出量二十粒以上である。數メートルの高さに噴出するのだが、今では危險だからと云ふので屋根をかけて押へ横に流して居る。主成分は硫酸曹達、炭酸曹達、食鹽、炭酸であり、其他にアルカリ鹽や其他種々なものが混じて居る。他の溫泉も成分は殆同樣であり只溫度の高低に由り遊離炭酸の量に差がある。本は同一源に發して居るのだが湯華の沈澱が盛なため次第に湧口が遠く分れ多少の差異を現はして居るのださうである。湧口のある所には凡て浴場や柱廊などの廣大な建物がたつて居る。



浴場の內ではカイゼルバード、スプルーデルバード、クールハウス、ノエバード、エリザベスバードなどが有名である。中の設備もすばらしいもので、大きな浴槽、蒸風呂、炭酸風呂、マッサーヂ其他水療法としての萬般の施設を備へて居る。共同室もあり個人室もある。何しろ熱いお湯が豐富に出て居るのであるから、勝手な仕掛が出來るわけである。大きなホテルにも湯を引いて居る。

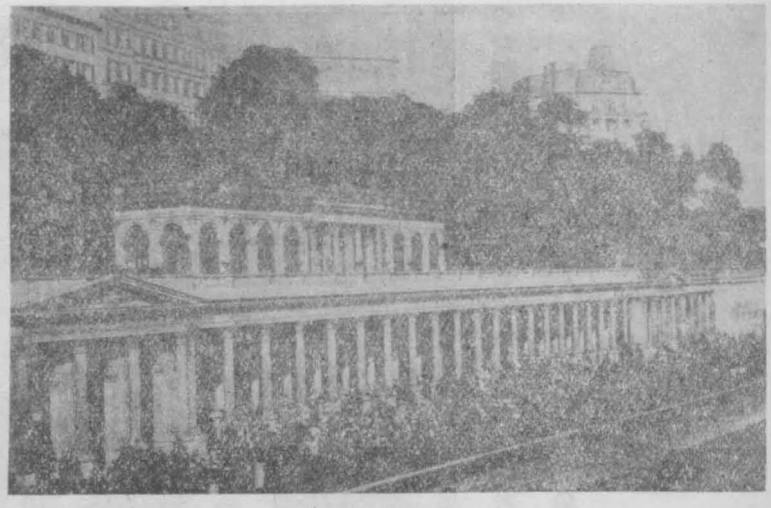
カルルスバード全景

カルルスバード温泉は浴療の外に飲療としても盛に用ひられ、殊に消化器系統の治療に重用せられて居る。小さなコップに二杯乃至六杯朝夕飲用するのである

浴客の多い季節には數ヶ所の湯呑場は朝の五時頃から湯呑客の長い行列が出來、十五分もかゝらなければ自分の番が來ないさうだ。其群集を入れる爲めにミュールブルンネンやスプルーデルには大きな柱廊の建物が立つて居るのである。

湯治の季節は四月十五日から十月十一日迄で、主なる浴場は此季節以外には閉ぢる。毎年の浴客は平均七萬人以上、其他に旅行見物の客も澤山ある。ホテルの大きいのも澤山あり下宿屋や素人屋も多いさうだ。それで此等浴客に對する慰安の設備も遺憾なく備へられて居る。

附近の山や谷は路が到る所に通じ、林間の逍遙、高所からの展望、溪流の探勝、公園の散策等思ふがまゝに出來尙ケーブルカーで山へも登られる。町には奏樂堂、劇場、舞踏場や良いレストーランも澤山ある。



カルルスバード　ミユールブルンネン
（群衆は溫泉飲用客）

又此鑛泉の天產品、加工品、溫泉發達の史的材料等を陳列した博物館もある。尙各地の美術品やボヘミヤ硝子細工などの店もあり、鑛泉の瓶詰カルヽス鹽や其加工品も種々賣られて居る。特に面白く思つたのはカルヽス煎餅である。歐洲で煎餅樣のお菓子は遂見た事はないが、此所では立派な日本流而かも日本の所謂カルヽス煎餅よりは遙かに風味の良いのを作つて居る店もある。

此溫泉は十三世紀の頃から利用せられたさうだがカール四世（一三四七—七八）が鹿を追ふて發見したと云ふ所謂口碑の下にカルヽス溫泉と呼ばれて居るのである。其後歐洲の王樣や歷史上有名な人々は大低茲に來て居り、ゲーテなどは十三回も湯治に來たさうだ　ゲーテの名の附いて街や記念像もある。

僕が茲へ來たのは十二月の十三日湯治の季節は過

カルルスル泉湧出場

ぎ、それに戰後の影響もあつたか案外浴客は少く、寧ひつそりした氣分であつた。プラーグの外人局からの紹介で僕を良く案外してくれた人があつたので、一泊の旅行ではあつたが案外良く見物する事が出來た。茲に着いた晩に先づ久振でホテルの熱い湯にはいつた事、ノエバードの西洋式な湯治の經驗、テープル川を登つた靜かな林の薄雪を踏みながら案内者と二人逍遙した時の氣分精巧な硝子細工の陳列された店、カル、ス煎餅の味などは未だに深い印象を殘して居る。